

JET からの手紙

トトロ、ラグビーとJETプログラムならではの経験

宮崎県オールみやざき営業課 国際交流員
Marsh Graham (マーシュ・グレアム)

「Miyazaki」って、アニメの監督？

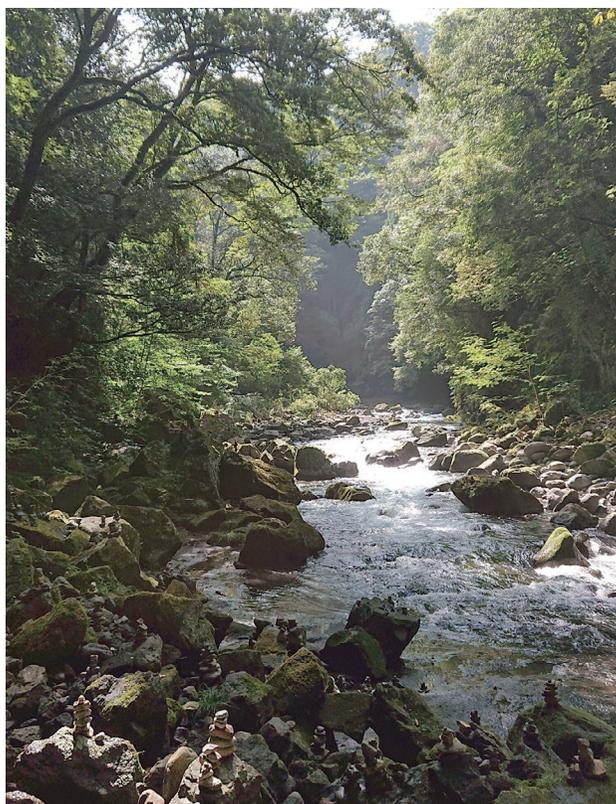
私は、JETプログラムに応募した際に、派遣地域などの希望を出しませんでした。なぜかといえば、どのようなところに行ったとしても新しい場所で新しい経験から学ぶことができると思ったからです。そして、縁あって初めて宮崎県で仕事をするのが分かり、インターネットで「Miyazaki」を検索してみました。すると、まずスタジオジブリの「宮崎駿」監督が出てきました。その後、スクロールしてみると、宮崎県の素晴らしい自然、景色、食べ物、文化などの写真、動画、記事を見つけることができ、このような場所で仕事ができることを、とてもラッキーだと思いました！（ちなみに、偶然にも宮崎県には「土々呂（ととろ）」という地区がありますが、スタジオジブリとは全く関係がありません。）

宮崎県の写真を最初に見た時、一番気になったのが「色」でした。私の出身地であるイギリスの景色はグレーがメインの色です。1年のうち8割が曇りか雨なので、空と海の景色はグレーで、石造りの建物が多いためにビルや町の景色もグレーです。それに対し、宮崎県の場合は、青空と海、緑色の山では、カラフルな宝石のように花が咲いているので、大変驚きました！地域によっては、写真のような雲海も見ることができます。早起きして山に登らなければなりませんが、この景色を見れば、後悔することは決してないでしょう！

また、宮崎県は、「日本のひなた」としてPRキャンペーンをしています。それは宮崎県の気候のことだけでなく、宮崎県に住む人の性格を表す言葉でもあります。宮崎県の皆さんは優しく、私のことも温かく歓迎してくれました。



高千穂町の国見ヶ丘から見える雲海（写真：都城市 CIR、ジョージ・グリーンン）



高千穂町にある「天安河原（あまのやすがわら）」周辺の景色

宮崎県庁のCIRって、どういう仕事？

国際交流員（CIR）の仕事は職場によって異なりますが、私の場合、翻訳と通訳が一番多いかもしれません。特に、宮崎県は「スポーツランドみやざき」としてPRしており、2019年には、「ISA World Surfing Games」というサーフィンの世界大会が宮崎県内で開催されたり、イングランドのラグビーチームがラグビーワールドカップ2019の事前合宿を県内で実施したりしました。そして、そのような場面で、選手や関係者のための通訳を務めたり、関係文書等の翻訳をしたりすることが多かったです。

スポーツ以外に、宮崎県を語る上では「神話」のことも外せません。県内には『古事記』や『日本書紀』に書いてある神話の舞台となった場所が多く存在します。例えば、高千穂町にある天岩戸神社や天安河原は天照大神にまつわる伝説が残る場所です。加えて、「神楽」も県内のさまざまな地域で伝わっているので、神話や神楽の説明文などの英訳も多いです。

翻訳・通訳以外の業務だと、取りまとめ団体アドバイザーとして県内JETプログラム参加者のカウンセリングを行ったり、宮崎県国際交流協会で窓口対応のお手伝いもしています。そして、県内の小学校から大学までを



イングランドラグビーチームが特別支援学校を訪問した際の通訳の様子

訪問し、母国の紹介もしています。JETプログラムに参加する前は、人に何かを教えた経験がなく、最初は緊張していましたが、慣れてきてからは、とても楽しくなってきました。また地域の方々に母国のことを紹介するために、さまざまなイベントにも参加しています。ギター演奏、料理教室などイベントによって内容は異なりますが、どれも楽しんでいます。

JETプログラムのおかげで、知らなかった場所に行くことができ、支援学校の生徒と楽しく話せるように手話を学んだり、芋や大根を掘ったり、わらびを採るために山に登ったり、県産焼酎をPRするために試飲し（過ぎ）たり、テレビで子どもたちにわらべ歌を歌ったりすることができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。多岐にわたる業務を担うCIRですが、毎日新しい経験から学ぶことができますので、今後も宮崎県の素晴らしさを世界に広めたいと思っています。皆さんも機会がありましたら、ぜひ宮崎県にいらしてください！心からお待ちしています。

プロフィール



Marsh Graham

イギリスのレディング出身。ロンドン大学東洋アフリカ研究学院で日本語専攻卒業、2013年に交換留学生として

神戸大学で勉強するために来日。現在宮崎県庁の国際交流員として2年目。趣味は武道、音楽、料理、プログラミングなど。